

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 2月 4日

所属・職名	商経・教授	氏名	長谷川 博
研究課題	「競覇 - 非競覇」原理以後取引論		
研究キーワード	「経験 - 現実 - 超越」のダブルクロス、応用の応用、ネオ共進化、発生論的共生、競覇 - 非競覇	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>社会交変換論VIにおいては、マーケティングの基礎を支えるコンステレーション（関連諸学の知や理解の連座配置・布置）には、基本開閉論としての包披論が不可欠だと目し、断絶の間にある流動である取引について、n元論を踏まえたさまざまなダブル・クロス（DC）におけるクロス・カップリング（CC）を今はこれ以上ない説明として言及した。まずは、どういう理解があれば[マーケティングの]世界を大まかにせよ分かったことになるかとなるので、「経験[証]井 - 現実 - 超越」₂というDCに言及した。そして、「認識 - 存在論」/「形式 - 内容論」上のさまざまな未完を考え進め、その流動の中でより主要な移行を互いに得るということのために、2元許容論化に前後して関係する「多元/1元許容論」化を中間帰結とする競覇原理からの飛躍（均衡の破れ）に首肯しつつ、[ポスト]資本制論のその先へと踏み出した。</p> <p>社会交変換論VIIにおいては、専門的にはトランスベクション機構（流通機構）を念頭し、より中立的だと目せるならばの「司 - 行 - 立」にある7（$\leq n$）変項間の相互包摂関係にあるn（$2 \leq$）重の「還元 - 創発」を支える星座的な説明の見地、すなわちマーケティング・アズ・コンステレーションの見地から、一事が万事に通じるようにあると見做した現実へと焦点を絞った。それが、ネオ共進化と発生論的共生、競覇と非競覇である。そして、これ以上の現実の探求、すなわち2重偶有性以後の2重様相性、善と必然の間の制度実在性についても考えていくことにはなるが、只今の筆者の手許から、クロスカップリングについての見解を示した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>「社会交変換論VI：取引原論へ〈未完〉を考え進めて」、長谷川博、単著、『千葉商大論叢』、57（2）、23～51頁、2019年、査読なし。</p> <p>「社会交変換論VII：マーケティング・アズ・コンステレーションの焦点」、長谷川博、単著、『千葉商大論叢』、57（3）、45～69頁、2020年、査読なし。</p> <p>3. 主な経費 文献費</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） 特になし</p> <p style="text-align: right;">（本文は1ページ以内にまとめること）</p>			